

多摩細胞診研究会会報

編集責任者/笹井 伸哉（国家公務員共済組合連合会立川病院）

発行責任者/小松 彦太郎（多摩細胞診研究会会長）



第 28 回多摩細胞診研究会

定年退職記念講演

夢 （よく遊びよく学ぶ）

国立病院機構中信松本病院名誉院長

多摩細胞診研究会会長 小松彦太郎

細胞診に関わるようになって40年、多摩細胞診研究会とは28年の付き合いになります。勉強以外でも、ゴルフ、釣り、探鳥と楽しい時を過ごさせて頂きました。本当に長い間ありがとうございました。

昭和18年長野県の田舎の百姓の長男として生まれた私は、母方の祖父の薦めもあって（祖父の父が医師を志したが果たせなかった）名古屋大学医学部に進学しました。最初に赴任した病院での出会いが呼吸器外科にそして細胞診の道に進むことになりました。西ドイツ（ケルン市民病院）への留学後、東京病院に赴任しました。ここで運命的とも思われる上野さんとの出会いが待ち受けていました。上野さんとはその後30年以上の付き合いになりました。森さん、田中さんが加わり東京病院の細胞診の勉強会が始まりました。細胞診に対する情熱は、東京病院と昭和病院の合同の勉強会を経て、1994年1月に第1回多摩地区細胞診研究会に発展し、多摩細胞診研究会に改名しましたが、

今日まで引き継がれています。これだけ長く研究会が継続できたのは、奇跡に近いことと思います。細胞診に対する夢、設立当初からのモットー”よく遊びよく学ぶ”が、この研究会をここまで育ててくれた信じています。研究会を主催して頂いた世話人の方々、会を支えてくれた多くの会員の皆さんには本当に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。これからのこの会のさらなる発展を祈念したいと思います。

第 28 回多摩細胞診研究会が行なわれました。

開催日：平成 20 年 4 月 12 日（土）

12 時 00 分より

会 場：

独立行政法人国立病院機構 東京病院 大会議室
プログラム

12：00 ～ 13：30 症例提示 鏡検

13：30 ～ 13：40 開会挨拶 浦田 兼司
（国立病院機構東京病院）

13：40 ～ 14：40 教育講演
座長 蛇沢 晶（国立病院機構東京病院）

「呼吸器の腺系病変：異型の強い良性、
異型の弱い悪性」
演者：川本 雅司 先生
（日本医科大学付属病院病理部）

14：40 ～ 15：10 特別講演

「多摩細胞診研究会の思い出」
多摩細胞診研究会 会長 小松 彦太郎

15：10 ～ 15：20 休 憩

15：20 ～ 15：30 総 会

多摩細胞診研究会 会長 小松 彦太郎
（国立病院機構東京病院）

15：30 ～ 16：30 症例検討会

司会 佐々木 直志（国立がんセンター中央病院）

症例 1：婦人科

田邊 なおみ 東邦大学医療センター大森病院

症例 2：呼吸器

遠藤 隆 国立国際医療センター

症例 3：単径部腫瘍

古屋 能孝 武蔵野赤十字病院

症例 4：軟部

川原 律子 財団法人結核予防会新山手病院

16:30 ～ 16:35 閉会挨拶

多摩細胞診研究会 副会長 大村 剛

18:00 ～

懇親会（小松彦太郎先生・田中健次さんを囲む会）

会場：セレス所沢

症例 2

国立国際医療センター戸山病院 臨床検査部

遠藤 隆

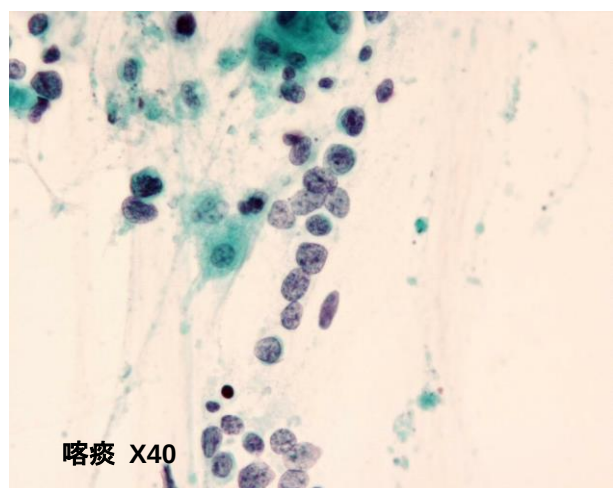
【症例】

73才 女性 喀痰

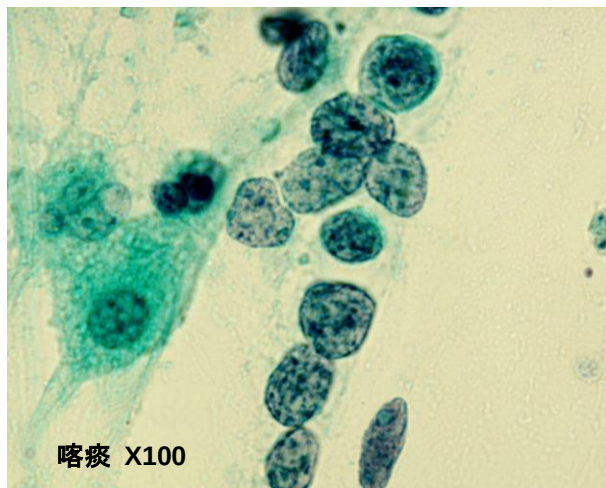
喘息疑いでステロイド吸入導入。その後両肺に陰影出現し、サルコイドーシス疑いで全身ステロイド療法施行。一時軽快していたが、2年後、胸部 X-P で両肺尖に腫瘍影が出現。呼吸困難あり喀痰細胞診を施行した。

【細胞所見】

壊死性背景に核はやや大型で裸核状の細胞が散在性～小集団で見られた。核形は類円形から楕円形で核縁不整が見られ、クロマチンは細顆粒状、核小体も数個認められた。以上の所見より、Small cell carcinoma と診断した。（写真 1,2）



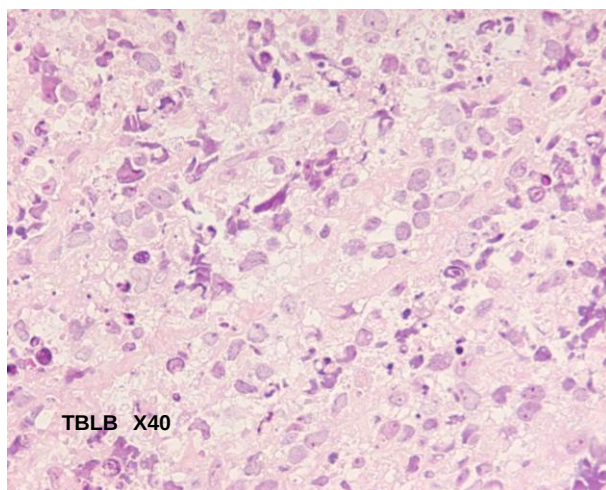
（写真 1）



（写真 2）

【組織所見】

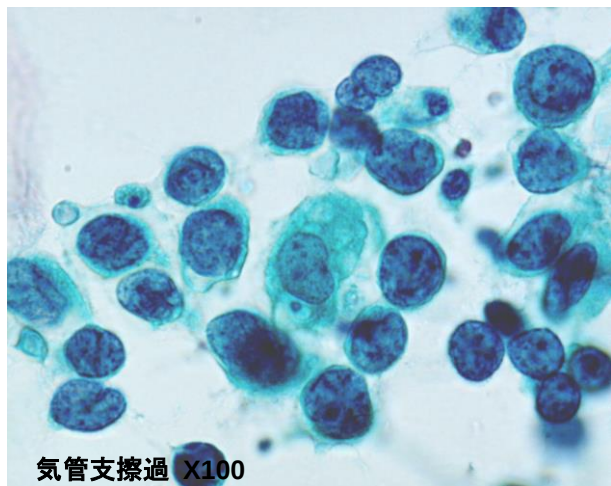
組織学的に大型の細胞がびまん性に浸潤、増殖している。免疫染色でこれらの異型細胞は LCA、CD20、CD79a 陽性、CD45RO、CD3 陰性で、DLBCL（diffuse large B-cell lymphoma）と診断された。（写真 3）



（写真 3）

【まとめ】

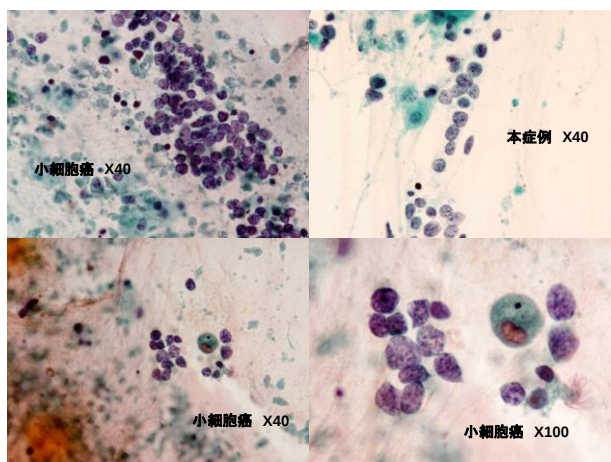
気管支擦過細胞診検体からは大型で核に切れ込みのある悪性細胞が孤立性に出現していた。（写真 4）提示症例の喀痰を再度検討してみると、やや大型で核に切れ込みある TBLB 検体と同系統の細胞が出現していた。今回、DLBCL の診断にいたらなかった理由として、背景の壊死や、あたかも小細胞癌を思わせる配列で出現していたこと、さらに喀痰に出現する DLBCL は稀であることがあげられる。



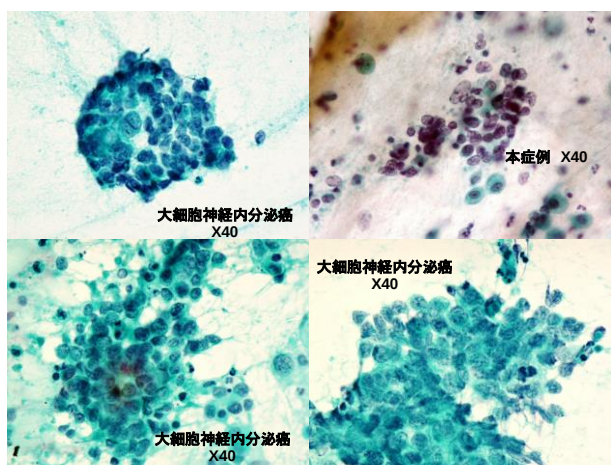
(写真 4)

鑑別診断としては小細胞癌、大細胞神経内分泌癌、悪性リンパ腫などがあげられる。(写真 5,6)

写真 5,6 に比較写真を提示する。



(写真 5)



(写真 6)

今回の症例のように喀痰で上皮性結合様に見えるものは診断に苦慮するが、核の切れ込み、孤立散在性、細

胞の大きさ、Labo data などにも留意すれば悪性リンパ腫と診断することが可能であると考えられた。

症例 3

骨盤内多発腫瘍を伴った神経内分泌癌の一例

武蔵野赤十字病院病理部¹⁾

多摩南部地域病院検査科²⁾

○古屋能孝(CT)¹⁾, 齋藤生朗(MD)²⁾, 宅見智晴(CT)¹⁾,

高橋聡子(CT)¹⁾, 清水恵子(CT)¹⁾,

山下茂郎(CT)¹⁾, 瀧和博(MD)²⁾

【症例】

78歳、女性、高血圧以外既往歴に特記すべき事なし。
一ヶ月前より食欲不振、腹部膨満感あり精査のため当院受診。画像上、腹腔内・骨盤内・鼠径部内に多発腫瘍有り。卵巣癌疑いにて骨盤内腫瘍・穿刺吸引細胞診、及び右鼠径部腫瘍開腹生検組織診を施行。

【穿刺吸引細胞診所見】

赤血球背景に、核腫大、核大小不同、N/C比増大する配列密な小型異型細胞集団を認められた。核は一部濃染し、クロマチンは粗顆粒状で増量し核小体は目立たなかった。

【術中捺印細胞診所見】

腫瘍細胞が柵状配列を呈する集塊で認められた。腫瘍細胞は比較的小型でN/C比は高く、裸核状で軽度の大小不同も認められた。一部ロゼット様配列も示し、核は類円形で核縁は薄く、核小体は目立たず、クロマチンは粗顆粒状で増量を示していた。

【病理組織学的所見】

軟らかくもろい半透明白色の小腫瘍塊で、組織学的に腫瘍は濃染する類円形・楕円形核を有する腫瘍細胞が、充実性もしくは索状配列を示しながら増殖していた。核分裂像が良く目立つ。一部胞巣の辺縁では柵状配列を示したり、毛細血管周囲性に並んだり、ロゼット様構造を示すところもあった。免疫組織化学染色では、AE1/3(+)、EMA(+)、N-CAM(+)、MIB-1(+), TTF-1(+), ER(-), inhibin(-), Desmin(-), Chromogranin-A(-), NSE(-)だった。以上より神経内分泌癌 neuroendocrine carcinoma と考えられた。

【まとめ】

神経内分泌癌は全身諸臓器に発生し悪性度が高く予後不良な腫瘍である。診断にあたっては細胞像と共に免

疫染色なども含め適切に鑑別していくことが重要であると考えられた。

浅見 英一

第 29 回多摩細胞診研究会が行なわれました。

開催日：平成 20 年 11 月 29 日（土）

12 時 20 分より

会 場：

国家公務員共済組合連合会立川病院 管理棟講堂

プログラム

12：20 ～ 13：20 症例提示 鏡検

13：20 ～ 13：30 閉会挨拶 笹井 伸哉

（国家公務員共済組合連合会立川病院）

13：30 ～ 14：20 講演 I

座長 布村 眞季（立川相互病院）

「化生変化を伴う子宮内膜細胞診」

演者：梅澤 敬

（東京慈恵会医科大学附属病院 病院病理部）

14：20 ～ 15：30 講演 II

座長 上野 喜三郎（TCPL）

「細胞増殖マーカーの免疫組織細胞化学」

演者：木村 文一

（特定医療法人 財団大和会 東大和病院 病理細胞診断科）

15：30 ～ 15：45 休 憩

15：45 ～ 16：00 総 会

多摩細胞診研究会 会長 小松 彦太郎

（国立病院機構東京病院）

16：00 ～ 17：20 症例検討

座長 田中 健次（所沢市民医療センター）

症例提示

症例 1：婦人科

（財）東京都予防医学協会細胞病理診断科

小松 裕子

症例 2：呼吸器

東京医大八王子医療センター

鎌倉 俊太郎

症例 3：子宮内膜

東京慈恵会医科大学附属青砥病院

池田 奈麻子

症例 4：泌尿器科

都立大塚病院

17：20 ～ 17：25 閉会挨拶

多摩細胞診研究会 副会長 大村 剛

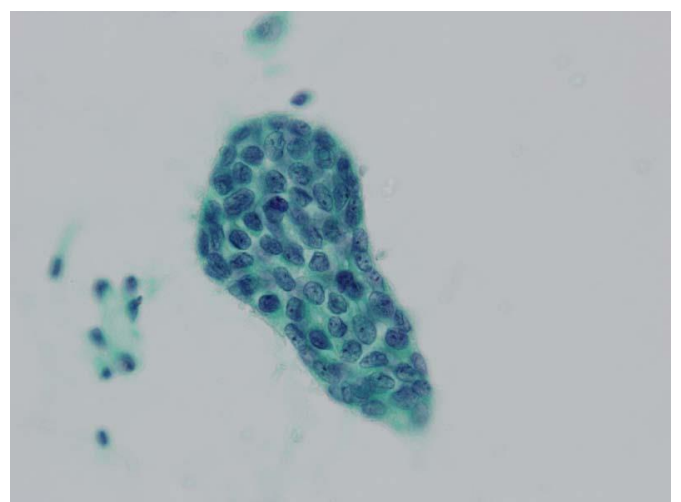
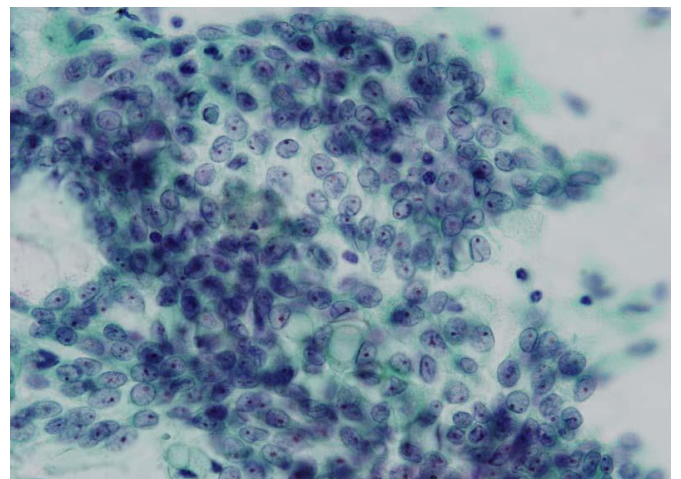
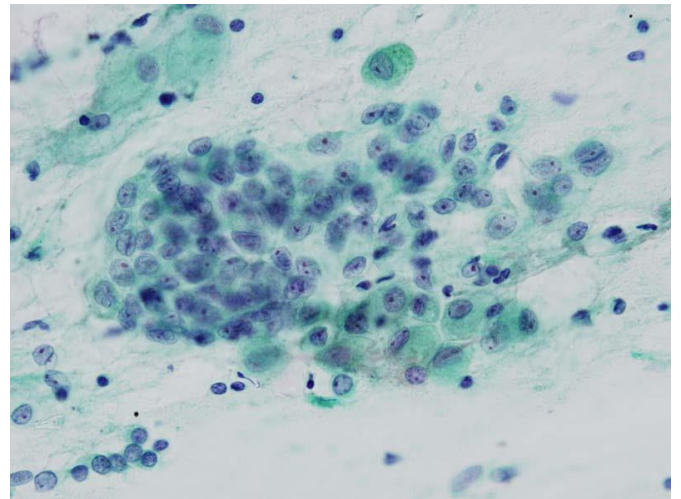
17：40 ～ 懇 親 会（立川病院別館食堂）

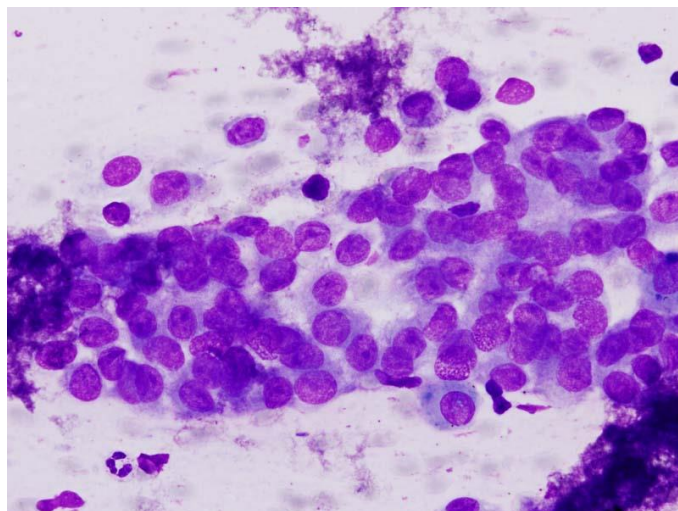
症例検討

症例 2：呼吸器

鎌倉 俊太郎

東京医大八王子医療センター

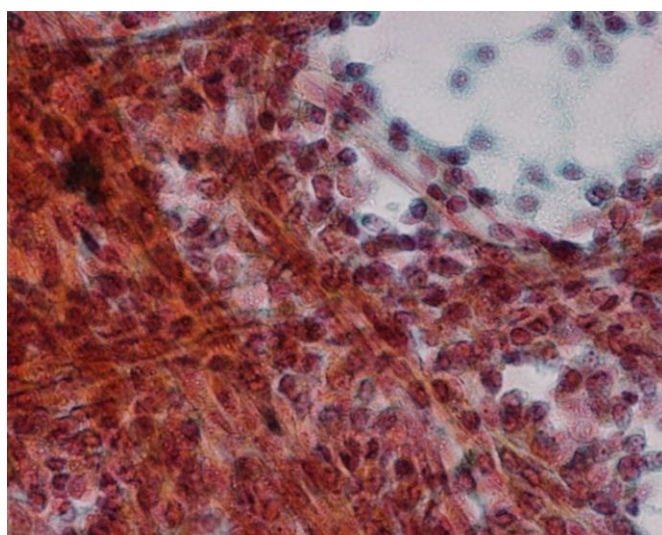
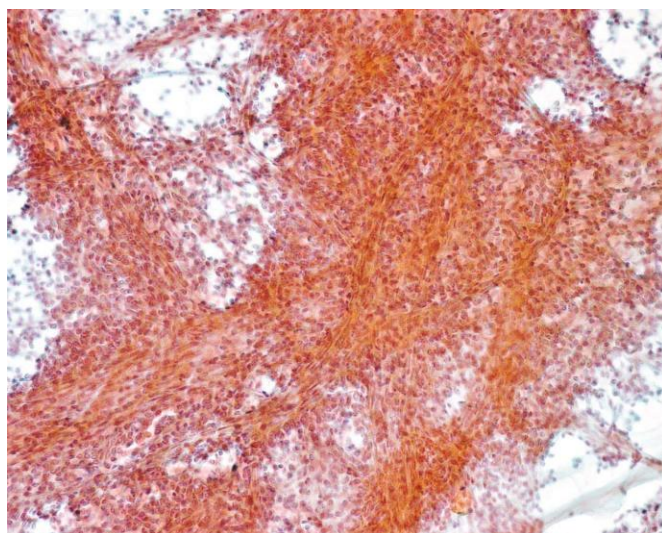




症例 3：子宮内膜

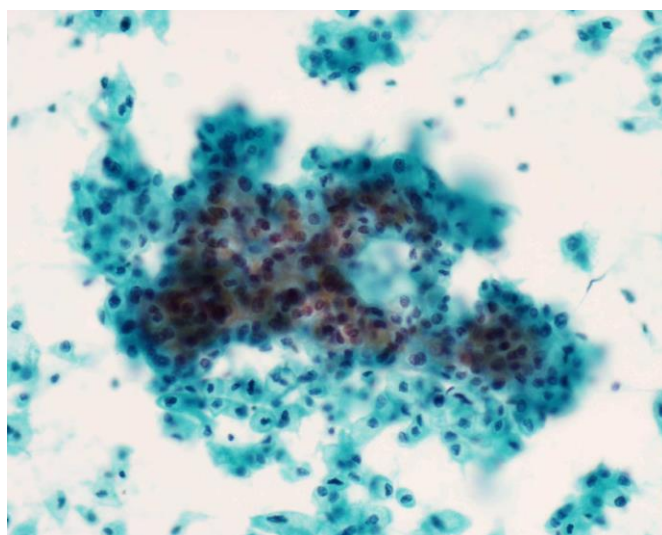
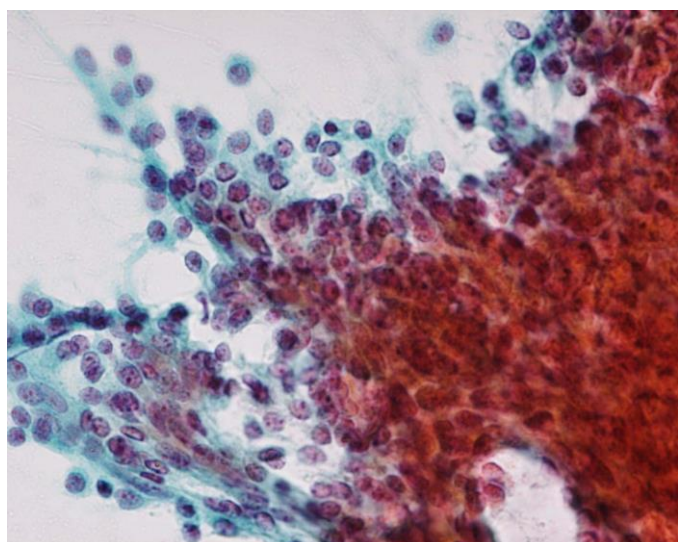
東京慈恵会医科大学附属青砥病院

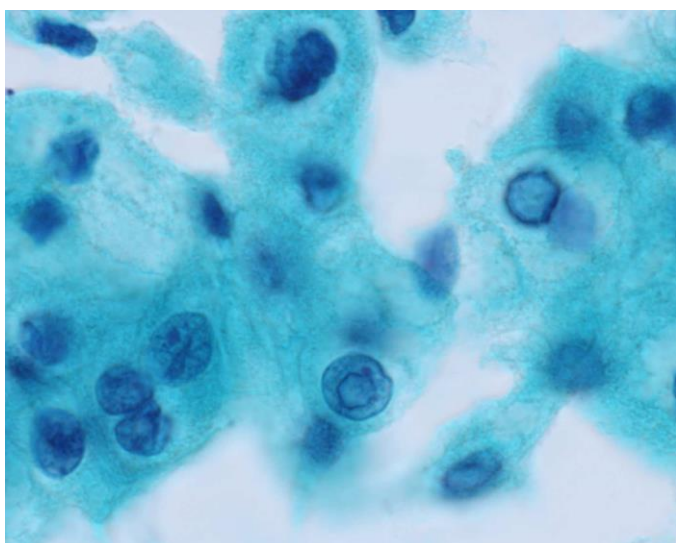
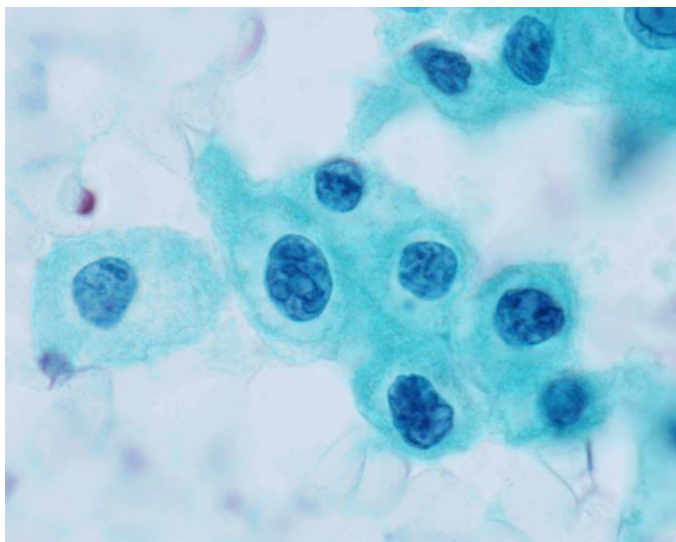
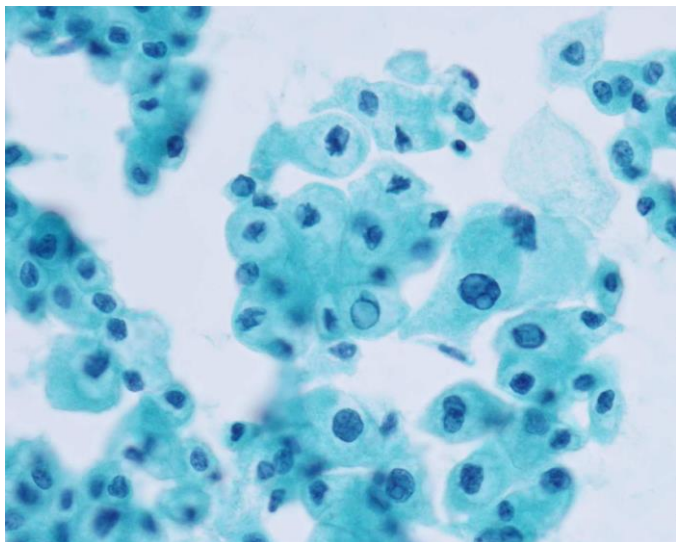
池田 奈麻子



症例 4：泌尿器科

浅見 英一 都立大塚病院





編集後記

多摩細胞診研究会は平成 21 年 3 月開催で 30 回の節目を迎えました。第 30 回は杏林大学の海野さん、郡さんのお世話で三鷹産業プラザで開催されます。30 回を記念して今まで発行された会報と多摩細胞診研究会の思い出を沢山の方々に書いていただいた記念誌を CD にて配布することになりました。とてもよい記念になると思います。今年は暖冬のように 2 月上旬に早くも春一番が吹きました。世界的不況の中、日本経済も落ち込み、多くの方々がリストラで失業しています。いつになったらもち直すでしょうか。時間がかかりそうです。第 29 回の症例検討は諸般の事情で全てを記載できませんでした。解答編は会報作成に間に合わず記載されていません。申し訳ありません。写真をみて考えてみるのもいいかもしれません。(言い訳です。)

研究会では、スキーツアー・ゴルフコンペ・釣り・バーベキュー大会等も開催しています。是非ご参加下さい。事務局では経費と手間の削減策として、ホームページや E-mail を利用して研究会開催・ゴルフコンペ等のお知らせを配信できるように準備しています。各施設で E-Mail を使用できる環境をお持ちの方は是非ご協力下さい。原稿依頼等何かと皆様をお願いすることあると思いますが、今後ともご協力程よろしく願いいたします。

平成 21 年 2 月

笹井 伸哉